

札幌伝統野菜としての
エダマメ品種「サッポロミドリ」

札幌市農業協同組合 経済部
次長兼営農渉外課長 曾我俊史

1. はじめに

札幌市は、明治の開拓初期から屯田兵が入植し、水田や畑の開墾が盛んに行われました。1876年（明治9年）には北海道大学の前身である札幌農学校が設置されるなど、北方農業の技術供給の拠点として、常に北海道の農業において重要な役割を担ってきました。

現在は、都市型農業の有利性を生かし、集約的な野菜や花きなどの栽培や、中小家畜を中心とする農業への転換を図り、札幌市民に新鮮で良質な農畜産物供給の役割を果たしています。

2. サッポロミドリと札幌伝統野菜

「サッポロミドリ」は1974年（昭和49年）に種苗名称登録され、古くから札幌市内の生産者で栽培を行っていたと推測されます。しかしエダマメの品種改良が進み「サッポロミドリ」から他の品種へ栽培が移行されるようになりました。

近年、食の文化を守り伝えていく重要性が全国的にも見直されている中、JA さっぽろにおいても、この地の宝ともいえる品種に注目し、地元「札幌」の地名がついている作物を「札幌伝統

野菜」と位置づけ、2014年（平成26年）より栽培を行っています。

現在は11名の生産者で「札幌伝統野菜」として栽培し7月下旬～9月上旬で収穫を行い、学校給食や市内量販店で販売をしています（写真1）。

3. おわりに

「サッポロミドリ」は早生品種で旬な時期にも限りがありますので、引き続き地産地消にこだわり良質な「サッポロミドリ」を消費者にお届けしたいと考えています。



▲写真1 札幌伝統野菜紹介とシール添付されたサッポロミドリ青果物



▲写真2 サッポロミドリを教材とした食育の様子

JA さっぽろでは、2016年より地域貢献活動の一環として札幌市内の小学校で農業体験学習を行っています。